紡ぐモノづくりの歴史　びんご経済論

50th 福山支局

〝記事第1号〟から50年

1962年4月10日の本紙に載った1本の記事。「安田工業（岡山県笠岡市富岡）さきに中小企業庁から中小企業合理化モデル工場の指定を受けたが岡山県商工部振興課から指定書の伝達を受けた」。発信は福山通信部―。

福山支局は62年に通信部として発足、翌63年、支局に昇格した。62年の4月1日付紙面で「発展著しい福山地区産業界の動向を取材し、報道することになった」と開設の案内を載せている。前年の61年は日本鋼管（現JFEスチール）が福山市に製鉄所の建設を決定。地域全体がこれからの発展に向け、沸きに沸いている中に置かれた新拠点だった。

それから50年。バブル経済の崩壊やアジア通貨危機、リーマン・ショック、そして東日本大震災。高度経済成長を経たあとの日本のモノづくりは幾度も壁にぶつかり、超えてきた。福山支局が管轄する広島県東部と岡山県西部地域を合わせた「備後地域」では通信部発足以前からモノづくりを続けてきた企業が今もそれぞれの歴史を紡いでいる。

62年4月10日に福山通信部が初めて記事を発信した安田工業（岡山県里庄町）は09年に設立80年を迎えた。今や高精度、高剛性の工作機械でトップブランドの地位を築き、広く世界に製品を供給している。

メッセージ

福山市長　羽田　皓氏

オンリーワンのメディアに期待

福山支局が開局50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。1962年の開設以来、地域産業の発展を支えるべく、福山市の企業等に関する情報発信にご尽力いただき、厚く御礼を申し上げます。

さて福山市には古くからさまざまな地場産業が立地し、時代の変化に歩調をあわせながら発展してきました。現在では伝統的な産業をはじめ、鉄鋼業などの基礎素材型産業や電子デバイス製造業などのハイテク産業など多種多様な産業が集積しており、国内外でトップシェアを誇る企業も数多くあります。

今日の景気動向は海外経済の減速や激しい円高等の影響により悪化しており、企業の経営環境は厳しさを増しております。このような状況の中、本市では設備投資に対する助成、新商品開発や販路開拓支援、企業OBによる産業支援コーディネーターの派遣事業等の企業支援を実施しているところであります。

貴支局におかれましては開局50周年を契機として、今後ますますのご発展をご祈念申し上げますとともに、モノづくりに特化した「オンリーワン」のメディアとして、引き続き地域産業の活性化に寄与する最新の情報を全国に発信していただくようお願い申し上げます。

備後絣に見る備後の気質

広島県東部と岡山県西部を合わせた備後地域には多種多様な産業が共存している。工作機械や産業機械、造船、繊維、金属加工、半導体関連装置―、多くの地元企業が独自技術を磨き、得意分野でオンリーワン、ナンバーワンを誇る。さらに三菱電機やJFEスチール、シャープなど大手メーカーの主力工場も立地。地域の事業所数は大都市圏にも引けを取らず、一つの経済圏を形成している。

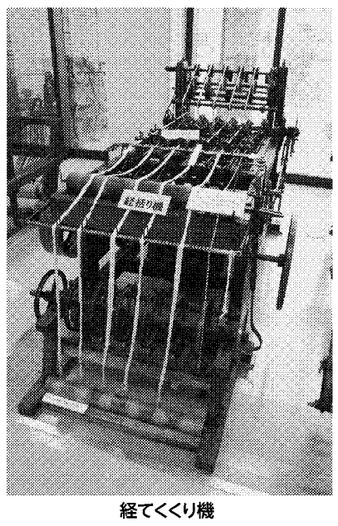
備後のモノづくりは繊維業が起源の一つと言われる。日本3大絣の一つとされる福山市新市町から始まった備後絣。現在のワーキングウエアやデニム製品、工作機械、産業機械、部品加工などの多くはこの系譜上にある。今は伝統産業と言われる備後絣だが、1960年には全国シェアの70％。年間330万反を生産する地元を代表する製品の一つだった。

備後絣の起こりには現代の備後の企業にも通じる意気込みと工夫があった。備後絣は1800年代の半ば、愛媛県の伊予絣や福岡県の久留米絣をモデルに技術導入したのが発祥という。「農業以外の産業を地域に根付かせる狙いで、当初は農家の副業として手がけられた」と福山市しんいち歴史民族博物館学芸担当の児玉弓加子さんは解説する。

伊予絣や久留米絣が工芸品の域にとどまったのに対し、備後絣は当初から産業化を目指していた。「機械による合理化を進め、量産化のために複雑なデザインを廃して柄に使う糸と手間を減らした」（児玉さん）。力織機が普及するようになると、一人で4台の機械を操る生産現場もあったという。

「備後では経て糸のゞくりゞを機械化したところに特色がある」（同）。染め作業の前に糸をくくる工程をこの地域では早くから機械化した。大正期には地元メーカーがくくり機の特許も取得。他地域では手作業が主流の工程も積極的に機械化することで高い生産力を確保していった。

備後絣は1960年をピークに減産の一途をたどった。しかし独自技術を追求し、市場を広げていこうとする風土は備後絣発祥の昔から今も変わらない。備後地域には企業規模を問わず、市場がグローバルに広がった中で挑戦を続ける気質が根付いている。



経てくくり機

世界に挑戦する企業群

独自技術を追求し、市場開拓を進める備後地域の企業群。市場が世界に広がる中で、企業は競争に打ち勝つための施策をめぐらす。海外メーカーとパートナーを組んで新規顧客の獲得を狙うメーカーやあくまで日本国内でのモノづくりにこだわるメーカーなど取り組みはさまざまだ。

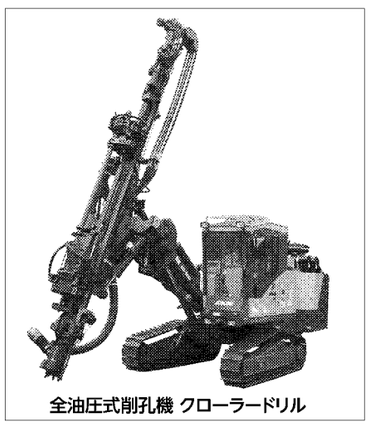
広島県庄原市に本社機能を置くヤマモトロックマシン（東京都千代田区、山本勝俊社長、03・3201・0701）は、韓国・チョンジン重工とパートナーを組んで全油圧式削孔機（クローラードリル＝写真）の販売を始めた。削岩機部分をヤマモトロックマシンが手がけ、これを一度、韓国に輸出してチョンジン重工がベース台車に組み付けて完成させる。完成品を日本へ輸入後はヤマモトロックマシンの東城工場（広島県庄原市）で全体を検査。品質確認したあとに出荷する流れだ。

ベース台車の品質は欧州メーカー製と同等で、価格は欧州メーカーの競合品に比べて15％程度安価になる。同社は日本国内だけで販売するが、チョンジン重工には大規模鉱山向けの大型削岩機も供給。海外市場でチョンジン重工が販売することから、一層の需要拡大が見込めるという。

一方、国内のモノづくりにこだわるのは半導体搬送ロボットを手がけるジェーイーエル（広島県福山市、崎谷春夫社長、084・952・5590）だ。同社は協力会社の得意分野や発注数による原価の違いなどをデータベース化した独自の受発注システムによって調達コストを削減。さらに部品在庫を減らし、製品設計の見直しで部品点数も削減して、国内生産でも円高に対抗するコスト競争力をつけた。ジェーイーエルはこの成果を持って海外市場に真っ向勝負を挑む。

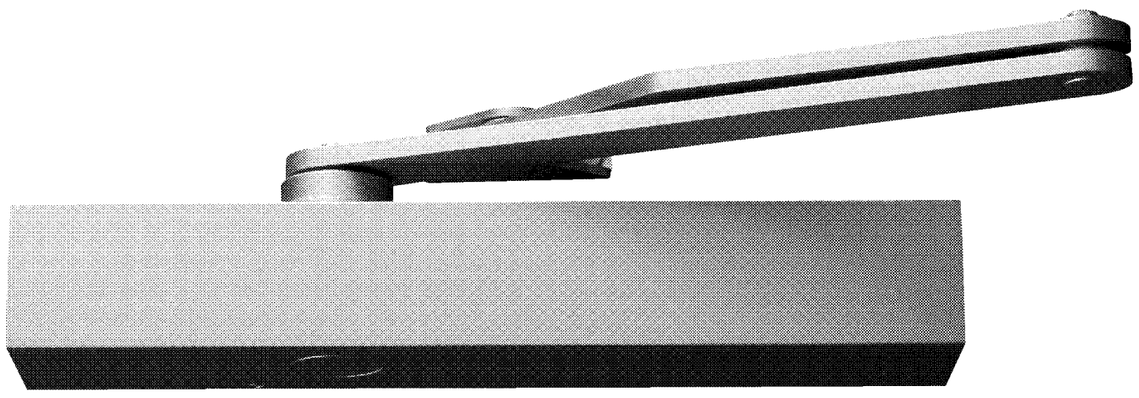
新たな拠点から積極的に市場拡大を目指す企業もある。ホーコス（広島県福山市、菅田雅夫社長、084・922・2600）は11年10月、タイで工作機械の部品加工と治具の設計製作を手がける工場を稼働した。

現地生産によりコスト削減と納期短縮を実現し、競争力を強める狙いだ。タイでは日本から輸出したマシニングセンターに現地生産の部品や治具を取り付け、タイ国内やインドネシア、インドに展開する自動車関連メーカーなどに売り込む。欧州市場なども視野に入れ、タイを中心に広範な市場戦略を描く。



全油圧式削孔機 クローラードリル

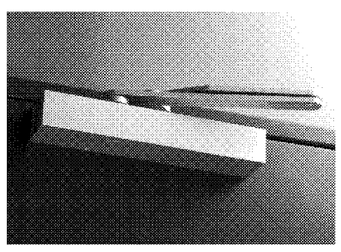
RYOBI

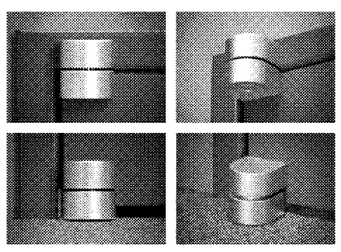


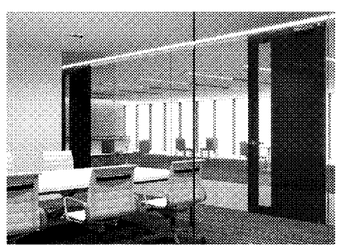
シンプルに 美しい調和へ

スペース・コンシャス――空間を意識する。
進化しつづける建築空間を意識し、その中に美しく調和する。
GEOPRO（ジオプロ）は、そうした視点から生まれました。
高機能で高品質、そしてシンプルなデザイン。
GEOPRO（ジオプロ）は、先進の空間に美しく調和します。

ジオプロ ドアクローザ ／ ピボットヒンジ
GEOPRO
2009年度 グッドデザイン賞 受賞


ドアクローザ

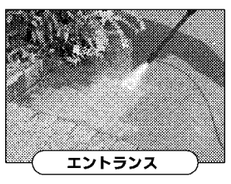

ピボットヒンジ

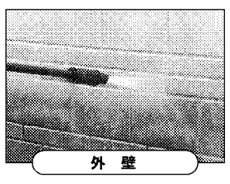

イメージ

詳しい情報はホームページ
http://www.ryobi-group.co.jp/

キレイを楽しく
リョービの高圧洗浄機　AJP-1700VGQ

高圧洗浄機なら
頑固な汚れも
水の力で
素早くキレイに！


エントランス


外　壁

自動車

用途に合わせて
水圧の調節が可能
溜め水も利用でき
とっても経済的！

最低圧力は音も静か

短時間で吸水完了※

ガンをサッと置ける

※砂や泥、ゴミを含んだ汚れた水は使用できません。

リョービ株式会社　本社　〒726-8628　広島県府中市目崎町 762
東京支社　〒114-8518　東京都北区豊島 5-2-8

ドアクローザに関するお問い合わせ先　リョービ株式会社　〒114-8518　東京都北区豊島 5-2-8　TEL 03-3927-5533
高圧洗浄機に関するお問い合わせ先　リョービ販売株式会社　〒468-8512　名古屋市天白区久方 1-145-1　TEL 052-806-5111